

湘南戦のルーツを紐解いて..!

●懐かしの湘南戦!

先日、湘南浦高会会長の平井隆一さん(21回)から、嬉しいメールをいただきました。

◇ ◇

■バレー部湘南戦3連覇

香田様。3月31日(日)に湘南高校にて第3回の現役湘南戦が開催され、浦高が2-0で勝ち、3連覇しました。その時の写真をお送りします。同時に初めての浦一女 VS 湘南高校女子との対戦もあり、一女の勝利でした。写真付けました。浦和麗和会会長でもあり、浦高バレー部OB会長の高橋宜治氏も主催者側で、一緒に応援して来ました。湘南側の代表者のひとは、2年後の湘南高校創立100周年行事の一つに、このスポーツイベントを計画しているとのコメントを仰っていました。現在、バレー部の他、ラグビーや水泳も湘南戦を復活しているそうです。



◇ ◇

いただいた写真の後ろには浦高の教育精神である「尚文昌武(しょうぶんしょうぶ = 文を尚(たつ)と)び、武を昌(さか)んにす)」が掲げられています。

以前、同期の友人からもジャカルタ在住の浦高OBと湘南高校OBによる湘南戦ゴルフ大会が開催されたという記事を紹介しましたが、浦高と神奈川県立湘南高校との交流戦は我々の心に大きく残っています。振り返ってみると、現役生徒による湘南高校定期戦は、1957(昭和32)年の第1回大会から始まり2002(平成14)年の46回大会まで運動部の対抗戦を中心とした熱い戦いでした。そんな**湘南高校定期戦のルーツ**を浦高百年誌『银杏樹・雄飛編』(1995・平成7年)からご紹介します。

◇ ◇

■湘南戦始まる

湘南定期戦の仕掛人は新聞部だった。旧図書館入口の会議室を新聞部が占領、進藤幸彦、古市久己、関根賢司らが新聞づくりでわいわいがやがやとやっていた。その中で「どこかと定期戦をやろう」という話が持ち上がり、新聞部でアンケートをやる計画ができた。アンケートでは、対戦相手として春日部、熊谷など県内の高校と湘南、千葉など県外の高校が

票を集めた。新聞ではさっそく、湘南の学校訪問の特集を企画、湘南の新聞部に定期戦実現のムードを盛り上げるように依頼した。

湘南には進藤たちと訪れ、夕方、学校食堂で生徒会担当の村田先生にウドンをおごっていただいたことを覚えている。両校の新聞部で根回ししたあと、生徒会ベースで正式に話が進み実現した。第1回は湘南が浦高に押しかけ、2回目は浦高が藤沢に国電を借り切って出かけた。野球の両校の校庭で、誕生して間もない応援団がエールの交換をしたのが懐かしい。(志村嘉一郎さん・11回)

【先生が制度に好きなことをやらせた“よき時代”「浦高ルネッサンス」より抜粋】

◇ ◇

志村さんの寄稿には、応援団の復活や文化部の活躍、古河強歩大会などについても触れられており、「いま思い出すと、先生が生徒に好きなことをやらせた“よき時代”で、『浦高ルネッサンス』といえるかもしれない」と結んでいます。また、野崎正雄さん(中29回)の寄稿には..。

◇ ◇

■生徒職員の交流・親睦を「湘南高校定期戦」

昭和30年の頃、浦高は木村泰夫校長の下、学業とスポーツの両立を目標として職員生徒一体となって学校の発展に努力していた。大学進学においても、公立高校として全国的に見ても優秀な成績を収め、各種スポーツも盛んでサッカーは度々全国優勝するなど立派な成績を挙げていた。

しかし、これだけでは満足せず他校との交流によって、切磋琢磨の上、一層の充実発展をはかるべく定期戦の構想が浮かび上がった。敵船の相手高としては、県内外の数校を一応候補にあげたが、学校の規模、組織、実績が同程度であること、また、かつての一高、三高の定期戦のごとく県境を越えての交流が望まれ、湘南高校に白羽の矢が立てられた。

湘南高校は藤沢市にある県立高校で、大学進学において優秀な成績を収めており、スポーツも盛んで、全国大会において野球、バスケットボールが優勝するなど立派な実績を収めていた。そして、作家石原慎太郎氏の出身校でもあったので、若人には多少関心があったようである。(後略)。【生徒職員の交流・親睦を「湘南高校定期戦」より抜粋】

◇ ◇

午前10時から午後3時までさまざまな競技が行われていた様子が窺えます。その後、文化部の交流、一般生徒の交歓会なども開催されていたようです。私の記憶には浦高での湘南戦は薄いのですが、初夏の太陽の下で湘南高校へ行き、さまざまな競技の応援に声をからしていた思い出だけはくっきりと焼き付いています。新しい形での湘南高校との交流戦が続くことを期待します。